

## 教育機関における図書館オリエンテーションが利用者に与える影響

榎本 翔

近年、大学図書館を取り巻く環境は変化している。文部科学省の高等教育政策において、大学図書館は情報リテラシー能力を獲得するためのアクティブ・ラーニングを支える、学習支援環境として認識されている。情報リテラシー教育のうち、図書館を利用者に印象づけ、基本的な使い方を学ぶ図書館オリエンテーションは、全国の大学図書館で実施されている。図書館オリエンテーションは、主に図書館を利用したことがない潜在利用者の集団を対象に図書館の案内ならびに説明を行うサービスである。

大学図書館の図書館オリエンテーションが新入生に与える影響は何なのか、大学図書館以外の図書館や、他の図書館利用教育とどのような関係があるのか、明らかになっていない。そこで、本研究では以下の3つの研究目的について調査研究を行った。

1. 教育機関における図書館オリエンテーションの実態を明らかにする。
2. 図書館オリエンテーションが学生の図書館利用行動に与える影響を明らかにする。
3. 図書館オリエンテーションが発展的な図書館利用教育に接続できているか明らかにする。

本研究目的を達成するために、特定の総合大学において質問紙による実態調査を行う。また、教育効果を測定するため、実態調査を行った半年後に Web フォームを用いた追跡調査を実施する。さらに、定量調査では測定することのできない個人的な事情について、半構造化面接手法による定性調査を実施する。

筑波大学の学群1年生1,540名を対象に、筑波大学附属中央図書館で行われる図書館オリエンテーションにおいて質問紙調査を行った結果、226名の学群1年生から回答を得られた。半年後の Web フォームによる追跡調査では、質問紙調査で協力を得られた135名のうち、26名から回答があり、半構造化面接による定性調査では8名から回答を得られた。

図書館オリエンテーションを今まで受けたことがあると回答した学生は58.2%だった。一方で、全員が受講した図書館オリエンテーションに対して、半年後に受けたことがあるか調査した結果、新入生オリエンテーションを受けたことがあると回答した学生は61.5%、フレッシュマンセミナーを受けたことがあると回答した学生は96.2%であった。図書館オリエンテーションが与える影響として、学習において学校図書館や公共図書館の資料を使うために貸出や閲覧機能を利用するという効果が見られた。逆に、図書館オリエンテーションを実施しない場合、図書館を全く使わなくなる可能性があることが示唆された。発展的な図書館利用教育へ結びつけるためには、学生にとってどの時間帯に行えば良いか、学生がどのようなことを必要としているのか判断した上で具体的にどのような図書館利用教育を行うのか、分かりやすく提示する必要があると考えられる。

(指導教員 逸村裕)